

十二月二十八日

午後遅く、野本君をつかまえて新大久保駅前の近江屋で説教。

先生している自分はその本性の根の深いところで説教好きなどころがある。ある筈だ。自分に即して考えれば必ずそうだ。説教好きの最たる者はイエス・キリストで、彼はその余りの説教好き故に十字架にかけられ殺された。説教というのは根底にそういう避けられぬ深い、他者を傷つけざるを得ない性格を持っている。

年長の者が年少の人間をさとす、説教する、つまり教育しようとするのには幾つかの仕組みがある。

説教する側の攻撃欲、他者の人格に対する破壊欲を満たす欲望の故にそうする。

間抜けな説教者は本当にさとしたい、教えたいと幻想してしまふ。しかし、明らかにこのレベルは間抜け過ぎる。鈍い人間、感応しない人間の大半はほうっておけば良いのだという世間の現実を知らぬだけなのだ。そうしたほうが資本主義社会の現実の効率には即している。馬鹿は馬鹿のままに野放しにしておいた方が良いのは明らかだ。もしかしたら自分はそれ程馬鹿ではない、略奪する側、階層にいるのかも知れぬという幻想の為に説教はあるのだろうか。

晶文社から今一生のゲスト・ハウスに住もう、送られてきて読んでいます。今一先生には一度インタビューで会った事がある。私の強い人の印象があつて、このテーマはピンとこない。

十二月二十九日

昼過、雪が降りしきる中を中央林間の森の学校現場へ。鉄骨部木造部、ほぼ完了して、南雲建設は良く頑張った。野村も良くしのいだ。

十二月三〇日

九時過、大住広人夫妻世田谷村に迎えに来て、我孫子真栄寺へ。十一時着。顔なじみが集まり、モチつき。佐藤健の墓石も何にも無い仲々いかした墓参りをして、酒を呑む。真栄寺の墓所はもう少し工夫して、あの石だらけの重苦しさを解放した方がよい。チヨツと石の密度が濃すぎるな。十八時世田谷村に戻る。山口勝弘先生より一足早い年賀状が届いていて、この賀状で、あんまり良い事が無かつた今年は終った。明日から新年だ。

十二月三十一日

昼過ぎより雪降りしきる。アツという間に白い風景となる。二〇時過、磯崎新宅へ。年越しの会。磯崎さんがゆでたソバは今年のは非常にうまかつたので三杯おかわりする。